




事例 Aさんの経過

Aさんの現状:身体障害者手帳：併合2級（四肢体幹麻痺、視覚障害、言語障害）

高次脳機能障害：注意障害、半側空間無視、失語症、遂行機能障害

年齢	できごと	親の対応
2004年11月 (12歳 小学6年)	自転車で横断歩道を横断中、自動車にはねられる。 いったん救急病院に搬送されたが、脳内出血にて呼吸停止、意識不明となり大学病院に転送、右開頭血腫除去術。	(右側頭骨／後頭骨骨折、右急性硬膜外血腫、左前頭葉脳挫傷、続発性脳梗塞) 
事故翌日	2回目の緊急手術後、約10日間ICUで治療。意識不明のまま一般病棟に移り3度目の手術(人工骨装着)。	
3週間後	徐々に意識を回復。	
3ヶ月後 2005年2月	リハビリ病院へ転院。 歩行や食事訓練も実施。 	母親が終日付添い介護のため、冬の朝は凍結し、帰りは街灯も全くなき真っ暗闇となる片道30km以上の山道を、軽自動車ですむことなく3か月間毎日通い続けた。(父親は年明けから単身赴任先へ戻り、母親一人に対応)
2005年4月	地元の公立中学校に入学。	
2005年5月 (13歳 中学1年)	リハビリ病院を退院。 以後、自宅療養しながら外来通院。	本人の姉まで手伝って入浴介助するなど、家族総出で対応。 父親が他県に単身赴任で不在の中、逆上して暴れると母親一人での対応が困難。
2005年	地元の公立中学校に通学開始。	車椅子使用だったため、母親が車で送迎。 
	身体障害者手帳を取得。(四肢の障害5級)	後に四肢体幹麻痺、視覚障害、言語障害もあわせ併合2級になった。
	他県に単身赴任していた父親と同居するため引っ越し。	姉は地元の祖父母の家へのこった。 
	国立障害者リハビリテーションセンターに懇願し診察開始。ようやく高次脳と診断された。 すぐに一通り検査したが、障害者手帳との関連性の話に至らず。	

<p>2006年4月 (14歳 中学2年)</p>	<p>引っ越し先の公立中学校へ転校。 年数を追うごとに歩行可能に。</p>   	<p>授業には全くついていけず、試験対策は両親が交代で連日数時間、週末はほぼ終日ついて勉強。しかし障害による理解力不足により何度も繰り返し教える必要があった。雪や大雨、激しい雷などの天候にかかわらず、中学は最後まで車による送迎。トイレ(おむつ)を失敗するだけでも学校から電話。学校からの指示で、体験学習や職場体験は親が付き添い。修学旅行だけは付き添いを免除してもらった。転校先では事故の経緯を知らずイジメの標的となり、先生方も障害の知識がなかったため、適切な対応をしてもらうことができなかった。事故後の進歩改善途上で出来ることはあったものの、その時点での能力評価により全日制の受験を否定されたため、家族自身の調査や学校訪問により受け入れてくれる私立高校を見つけ、その校長先生にも認めていただいて入学できた。進学については「高卒」の資格が得られなくても、学校側から提案されたフリースクールに行かせるべきか長く議論した。</p>
<p>2008年3月</p>	<p>中学校卒業。</p>	
<p>2008年4月 (15歳 高校1年)</p>	<p>高校入学。</p>  	<p>高校でも同様に親がサポートして定期試験の勉強だけで3年間で過ぎたが、その甲斐あって第一志望の大学に合格した。高校では送迎可能範囲な地域に家族で転居しスクールバス乗り場のある駅前まで毎日付き添ったが、駅では人混みにもまれて階段から落ちそうになったことが何度もあった。</p>
<p>2011年3月</p>	<p>高校卒業、大学入学。</p>	

今回は A さんの親御さんに、これまでの経過を振り返っていただきました。A さんには深く感謝申し上げます。A さんより、振り返りのご感想をいただきました。

「久しぶりにむかしのことを振り返りました。毎日の送迎や介助は本当に大変で、時には休める日があれば良いと思いますが、親子で向き合っていると、マイナスの部分だけではなくプラスの部分も発見できました。プラスの部分を活かせば希望もあり、私たち親子は前に進むことができたのだと思います。」